

朝日森運輸

朝日森運輸（竹蓋雅幸社長）が成田空港東部地区に構える「成田東部物流センター」（成田市多良良、以下、成田東セン）の稼働が好調だ。2014年4月に開設した同センターは保冷状態で作業可能な冷蔵・冷凍庫を備える高機能物流施設で、フォワーダー、メーカーの輸出入ハブとして活用されている。近年は、日本発着の航空輸送需要が落ち込み、さらに羽田空港の供給拡大が進むなど、フォワーダーにとっては成田地区の自社施設へ投資が難しい状況が続いている。



同社はフォワーダーに代わって高機能・高品質

国際物流支援へ機能整備

な倉庫を用意し、フォワーダーの成田地区でのオペレーションを支援することで、実績を伸ばしている。

竹蓋社長はさらなる羽田空港の供給拡大といった市況変化を踏まえ、「当社のようなニュートラン企業に業務を委託したいという要望はますます増していくだろう。ハード面をしっかりと整え、さまざまな業務を任せられる体制を作っていきたい」と話す。労働力不足が深刻化する中、人材確保の面でもフォワーダーをサポートし、顧客のビジネス拡大に貢献していきたいとの考えだ。「荷捌きから、加工などの付加価値業務、クールチェーンから危険物の取り扱いまで、ワンストップで物流業務を提供する体制を構築したい」としている。

特に好調なのが保冷業務。厳格な温度管理を求められるニーズが多く、化学品の引き合いが増加

している。保冷環境下で梱包や加工などの業務を行える施設は、成田地区に多くは無く、引き合いが続いている状況だ。

成田東センターの敷地面積は2万4500平方メートル、床面積は1万2300平方メートル（危険物専用庫を除く）。開設当初から冷凍・冷蔵庫を3室（冷蔵80坪・60坪、冷凍60坪）整備した高機能売場だったが、さらなる作業品質の向上を目的に昨年5月には空調室を設置、夏場などの厳しい環境でも細かい作業が可能となった。

直近では、2月末に薬事法に基づく化粧品製造業許可を取得。これまでも化粧品品の取り扱いがあったが、許可取得により、箱を開封しての説明書同梱、ラベル貼付などの作業が可能となる。成田東センターの稼働率は9割程度となっており、ほぼ満床に近い状態。作業スペースが逼迫していることから、施設の

一部を改修し、中2階スペースを作る形での増床を予定している。1000平方メートル程度のスペースを新たに設けられる予定で、化粧品に対する付加価値業務などの作業場として利用する計画。一部の作業を増床するスペースに移し、保冷設備のさらなる拡大も検討している。

今年4月には、危険物専用庫（約100平方メートル）を開設。保税蔵置所の許可も取得し、一時保管のスペースとして提供している。消防法で定める危険物倉庫の許可を得ており、コンプライアンスを重視する荷主の声にも応える。今後の展開として竹蓋社長は「まだ用地に余裕もあり、保冷機能を備えた危険物倉庫の建設も検討している」と話す。今回稼働した倉庫は1000平方メートルの規模だが、新たに600平方メートル規模の倉庫が建設可能だという。稼働状況を見ながら見極めていくとしている。